

研究・調査報告書

| | |
|--|---------------------|
| 報告書番号 | 担当 |
| 3 5 3 | 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 |
| 題名 (原題/訳) | |
| <p>Effectiveness of brief alcohol interventions for general practice patients with problematic drinking behavior and comorbid anxiety or depressive disorders. 不安や鬱を合併した問題飲酒行動の一般内科受診者の短期のアルコール摂取への介入の効果について</p> | |
| 執筆者 | |
| Janina M. Grothues, Gallus Bischof, Susa Reinhardt, Christian Meyer, Ulrich John, Hans-Jurgen Rumpf | |
| 掲載誌 (番号又は発行年月日) | |
| Drug Alcohol Depend. 2008 Apr 1;94(1-3):214-20. | |
| キーワード | |
| 短期介入、アルコール使用問題、問題飲酒、不安症、うつ病との合併症 | |
| 要 旨 | |
| <p>目的： 短期間の介入は薬物乱用を抑制する効果的な方法である。しかし、この方法が、鬱や不安症を合併した患者に対しても有効であるかについてはよく分かっていない。</p> <p>方法： 408名の一般内科を受診したアルコール乱用者を対象にランダムに介入群と非介入群に分けて検討した。</p> <p>結果： 短期介入は合併していないもので飲酒量の減少を認めたが(-2.64g vs -8.61g; P=0.03)、合併しているものでは認めなかった(-22.06g vs -22.09g; p=0.76)。合併していない者と比較して、飲酒量の減少は合併している者で有意に多かった(-6.55g vs -22.08g; p<0.01)。回帰解析でも不安または鬱の合併は飲酒量の減少の有意な予測因子であった。</p> <p>結論： 短期介入は合併症患者では有意な飲酒量の減少を認めなかった。短期介入はアルコール依存症でより効果がないことが知られており、合併症があるものではアルコール依存症の者が多く締めることから効果が限定的であったと思われる。この結果を確認するためにより大規模なコホートで検討が必要であろう。</p> | |